高校生のためのフランス語コンクール

Concours de français pour les lycéens

Kawakatsu Naoko
川勝　直子

Lycée Kokusai du Département de Hyogo
claire214?gmail.com

１．はじめに

1993 年、第二外国語としてフランス語を学ぶ高校生のための（ビデオ・テープとオーディオ・テープによる）コンクールが初めて開催された。以後 15 年の月日が流れ、高校における２外フランス語教育の現状も徐々に変化してきているが、必ずしも好転しているとはいえない。フランス語を履修することができる高校の総数は増加した（注1）けれども、学校の特色作りの彩りのひとつとして設置されたものの形骸化してしまったり、受験科目でないために時間数削減や廃止が突然決定されたり、という例からも想像できるように、内容の充実度が増したとは言い切れない。しかしこのような状況のなかでも、少しずつ高校フランス語教育を盛り立てる可能性をもった新しい試みがなされてきた。日仏中高ネットワーク（Colibri）の誕生、大学推薦入試における（フランス語履修者、あるいは仏検合格者への）優遇措置、教員間のネットワーク作りなどである。

それらとともにコンクールが挙げられる。コンクールの存在は、学校の中でも「第二外国語」としてのフランス語をアピールすることに役立つし、発表の機会やクラスの枠を超えた基準による評価を与えてくれるという点で生徒の学習意欲を高め、達成感を与えることに大いに貢献している。本稿では、西日本に於ける高校生のためのフランス語コンクールの実際について紹介するとともに、問題点や今後の展望について考えたい。

２．これまでに行われたコンクール

西日本の高校生（2 外履修者）が参加できるものとしては、これまでにタイプの異なる 4 つのコンクールが行われてきた。（表 1 参照）

２－１.「高校生のフランス語コンクール」

このコンクールの特徴は「全員参加」できることであり、普段授業で行っていること（５人前後のグループでの Scène 発表）をそのままビデオ撮影して応募するという点である。授業時間内にできること、生徒が特別な練習をしなくてもよいこと、教員の負担が比較的少ないことなどが、コンクール参加への敷居を低くしている。また、教員も審査に加わることができるので審査が透明で公平感があり、生徒や教員の声を取り上げながら内容を改善していくことが比較的容易である。これまでにも、フランス語そのものを採点しやすくするために小道具や効果音を禁止する、先入観をなくすため学校名を公開せず審査する、要項に反するものは審査後一律に減点する、など改良を重ねてきた。点数をつけるだけでなく詳しいコメント（評価できる点と直すべき点、激励の言葉など）を審査員に義務づけたり、全参加校の作品集ビデオとともに校内選考のみ参加の生徒にも参加賞を送付するなど、全面的に参加者側の立場に立っている。また１年しか履修できない学校が多いため、フランス語学習１年目の生徒のためのコンクールであることを明記し、２年目以上のグループは点数を差し引くなどの処置をとっている。

反面、コンクールの実感がうすいのも事実である。授業の活動をそのまま撮影するので、生徒たちにそれほどの緊張感がないままにコンクールが行われているといえる。

２－２.「高校生フランス語暗唱コンクール」

このコンクールは、1997 年から 2002 年までの６年間に渡って関西（主に兵庫県）の数校が集まって行われた「高校生のためのフランス語祭」の中の「詩の暗唱コンクール」の部分が独立して生まれたものである。学習年数によって部門が分けられていたこと、審査を待つ間に高校生と大学生によるフランス文化に触れることのできるアトラクションがあったことなど、注目に値する。高校側の希望に沿うかたちで作られたコンクールであったため、当日の進行や審査コメントなどにも細かい心配りがなされていた。また関西だけでなく遠方からの参加もあり、参加校数も安定していたため、コンクール本来の意義をもつものとして存在価値があったが、大学の仏文科廃止とともにコンクールも廃止されるという残念な結末を迎えた。高校教員の間では、今でもこのコンクールの再開を願う声が聞かれる。

２－３.「西日本高校生スケッチ暗唱大会」

このコンクールの最大の特徴は、ペアでの出場という点である。友達と一緒だからこそ頑張れた、楽しめた、という声が参加した生徒達から聞かれ、充実感や達成感が大きい。友達と練習を重ねた結果思いがけない進歩を遂げ、そのことで賞にかかわりなく満足できた生徒もおり、潜在能力を効果的に引き出す意味でもこのコンクールの存在は貴重である。

しかし、参加校数は減少しており、原因としては入賞する高校の偏り、各発表者に対する評価コメントがないこと、問い合わせない限り点数が明示されないことなどが

挙げられている。

２－４.「高校生対象フランス語暗誦大会」

英語スピーチコンテスト、スペイン語暗誦大会と同時開催であり、開会式やレセプションが合同で盛大な集まりとなっている。審査を待つ間のフランス人によるプログラムなど細部に渡って丁寧に準備がなされている。しかし、各校の参加人数に制限がない（あってもそれ以上の人数が参加している）ため、一部の学校の生徒が賞を独占することが多く、参加校数は減少している。また、得点や観点別評価が明らかにされず、一人一人に対するコメントがないことも改善が望まれる点である。

３．コンクールを改善するためには

これまでコンクールの度に生徒や教員から出た声をまとめてみると、①審査結果そのもの、あるいは審査基準の不透明さに対する不満、②生徒へのコメントなど個々の生徒への教育的フォロー不足、③入賞校の偏りである。

これらに対して、例えば必ず全出場者に対してコメントを書く、点数を明示するなど主催者側が比較的対応しやすいものもあり、これについては大いに改善を求めたい。また入賞校の偏りについては各学校からの参加者数を絞る、学習時間別に部門を設けるなど、ある程度の工夫も必要であると思われる。しかし、一番大きな原因は、高校の２外フランス語の設置状況が千差万別であるため、生徒のレベルを図る前段階で状況をなかなか把握できない点ではないだろうか。

もともと高校における２外フランス語は、入試に関係のない科目であり、各校での位置づけが明確でないうえに、共通カリキュラムも不在である。そのため単純に「学習時間」や「単位数」などでグループ分けすることも困難である。２－１で紹介したコンクールが比較的公平感があるのは、「学習１年目」と明記していること以上に、同じ教材を使って学習しているという点が大きく、その意味では特殊な例であるともいえる。

このような点に対応するための打開策として決定的な名案はないが、様々なレベル・形態のコンクールが数多く開催され、生徒達が自分に合ったものを選んで参加することができれば理想的である。ひとつのコンクールを立ち上げて実施し、存続するための主催者側の苦労や負担の大きさを考え合わせると実現は容易ではないが、望まれる状況であることは確かである。

４．アトリエで考案されたコンクール

ＲＰＫ2008 のアトリエで参加者を３つのグループに分け、高校生のためのコンクールの構想を練ってもらったところ、今までになかったタイプの企画が考案されたのでここで簡単に紹介したい。

①「フランス語でマリオネット」４人１組で課題のスケッチを演じる。ただし、２人が暗誦、２人が動きを担当する。審査には生徒も参加する。演技賞、発音賞など観

点別に賞を出すことができる。どんなレベルの生徒でも参加でき、楽しめる。②「私の文化を紹介します」口頭ではなく書く（描く）力を審査するポスターコンクール。どんなレベルでも参加できる。オープンキャンパスで展示し、高校生や一般の人が投票する「一般アピール賞」も設ける。③「暗唱コンクール」学習時間で段階を分け、課題の内容も詩・物語など多種多様に準備する。審査基準をはっきりさせることや見学高校生も含めた参加者からのフィードバックを大切にする。

これらは既存のコンクールで問題があったり欠けていたりする部分に対するひとつの提示であるともいえるので興味深い。

また、アトリエ参加者からは「(課題が難しすぎるという意見に対して）簡単にハードルを下げるべきではない。チャレンジする精神もたいせつである」、「審査員のコメントは体裁よく仕上げられたものである必要はなく、例えば各審査員が付箋紙に書いたコメントを１枚の紙にまとめるだけの簡単なもので十分である」などの貴重な意見が寄せられた。

５．終わりに

フランス語コンクールの実際について見てきたが、これらのコンクールは、主催者側だけでなく、高校教員（非常勤講師）のボランティアで成り立っていることをあえて強調しておきたい。逆に言えば、高校の２外フランス語はそれほどの熱意がなければ発展は難しい。その観点からすれば、この１５年間に複数のコンクールが生まれ、今後の展望があるということは、それ自体で既に感慨深いことでもあるといえる。

これからも高校生がフランス語を学ぶ機会がますます増えていき、「高校生のための」様々なタイプのコンクールが開催されていくなかで、それぞれの生徒が自分の個性にあったコンクールを選び、多くの参加者を得てコンクールが発展していくこと、そしてそれが高校のフランス語教育の発展につながっていくことを願い、努力してゆきたいと思う。

注１　フランス語を履修できる高校は、1993 年度で 128 校、2005 年度で 248 校。

参考資料・参考文献

文部科学省ホームページ「高等学校における英語以外の外国語の開設」
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/05/04051101.htm
菊地歌子、川勝直子（2007）「フランス語教師のための研修の必要性」関西大学外国語教育研究第 14 号
川勝直子、金森百代、三島玲子、Marie-Louise MANNE（2002）「高校生のためのフランス語祭」Compte rendu de la 16e Journée Pédagogique de Dokkyo
中井珠子、川勝直子（1994）「高校生のためのフランス語コンクール」Rencontres 8

表１　これまでに行われた、西日本の高校生が参加可能なコンクール

	高校生のフランス語コンクール	高校生フランス語暗唱コンクール	西日本高校生スケッチ暗唱大会	高校生対象フランス語暗誦大会
実施回数（開始年）	１５回（1993）	４回（1999）※2002 終了	５回（2003）	５回（2003）
主催	白百合女子大学フランス語教育研究会、白百合女子大学	神戸海星女子学院大学フランス語フランス文学科	大阪日仏センター＝アリアンス・フランセーズ、関西学院大学文学部フランス文学フランス語専修	聖トマス大学国際言語教育センター
後援	フランス大使館文化部、フランス語教育振興協会(APEF)、第三書房	フランス総領事館、関西日仏学館、兵庫県教育委員会、(財)神戸国際協力交流センター、(株)日仏商事、AIR FRANCE、神戸新聞社	**（後援）**フランス大使館、日仏中高ネットワーク、日本フランス語教育学会 **（協力）**朝日出版社、欧明社、三修社、第三書房、白水社、フランス語教育振興協会、AIR FRANCE、 NHK 出版	フランス大使館、聖トマス大学入試部入試広報課
日程（最新のもの）	2008 年 12 月 6 日（土）審査会 2008 年 12 月 15 日(月)　結果発表	2002 年 11 月 2 日（土） 13:00～17:00	2008 年 11 月 1 日（土） 13:30～17:00	2008 年 11 月 15 日（土） 13:00～17:30
対象	フランス語学習１年目の高校生（２年目以上は点数集計後に 5%差し引く）。仏語圏からの帰国生は指導、撮影のみ参加できる。	フランス語をカリキュラムに取り入れている高校でフランス語を学習している高校生（仏語圏に１年以上滞在の者は除く）。	高校で第二外国語としてフランス語を履修している生徒（3ヶ月以上仏語圏滞在経験のある者、両親のいずれかがフランス語を母語とする者は不可）。	高校もしくは同等と認められる学校等に在学中の生徒（ただし仏語を母語とする者、仏語圏の国に１年以上滞在歴のある者は応募できない）。
参加できる人数	1 校から 1 グループ（５名）。ただし校内選考の参加者も参加賞の対象とする。	1 部門につき、1 校から 2 名が応募可能。	各学校 1～2 組（1 組は 2 名）	応募者多数の場合は人数制限をすることがある。
内容	A la découverte （第三書房）から Scènes を 2 つ（Scènes1,2 以外)選んで演じ、ビデオ録画する	部門ごとに指定された課題の中から 1 つ選び、暗唱する. 第１部門　学習歴 2 年未満、第２部門　学習歴 2 年以上	課題のダイアログから１つ選び、暗唱する	指定の課題文から１つ選択し、暗誦する
審査方法・審査基準	明瞭な発声、発音、表現力（表情、身振り、動きも含む）を評価する。参加校のフランス語担当教員、フランス大使館フランス語教育担当官などから構成される審査委員会が作品を審査し、順位を決定する。ただし参加校の教員は自校の作品の審査を行わない。 enthousiasme/vivacité　5 articulation/prononciation /intonation　5 expressivité　5 total　15	明瞭な発声、発音、表現力などの要素が審査の対象となる。 主催校及び後援団体のメンバーから構成される審査委員会が審査し、順位を決定する。 Mémorisation　5 Voix　5 Prononciation　5 Rythme　5 Expression personelle　5 Total　25	mémorisation　10 qualité de la diction intonation et rythme　10 prononciation　10 expressivité　20 qualité de l'expression, effets expressifs, théâtralité total　50 ※théâtralité はことばの面での演劇性のことで、テキストの内容にふさわしい表現がことばの面でできているかどうかに関する審査項目。	暗記　20 発音・イントネーション　20 表現　10 合計　50
賞	最優秀賞(1)、優秀賞(2)、優良賞(3)、特別賞。参加者全員と参加者全校に参加賞	第１部門 第 1 位(Stella Maris賞)、第 2 位(Ronsard賞)、第 3 位(Verlaine賞) 第２部門 第 1 位(Stella Maris賞)、第 2 位(Mallarmé賞)、第 3 位(Prévert賞). 両部門を通じて、特別賞(Air France 賞、日仏商事賞)、参加賞。	優勝(1)フランス大使館賞。準優勝(3)日仏中高ネットワーク賞、関学仏文賞、センター＝アリアンス賞。審査員特別賞、奨励賞、コンクール参加証明書。※センター＝アリアンス賞と奨励賞は原則として学習歴 1 年未満の生徒のみを対象とする	優勝、2 位、3 位、敢闘賞、参加賞